

静岡県漁業協同組合連合会  
1131 静岡市追手町 9-18  
17.2.18 ☎ 054-254-6011  
編集・発行 = 指導部漁政課

## 1. 県信漁連人事異動を発令

県信漁連では2月14日付けで、人事異動を発令しましたのでお知らせします。

総務部付事業推進役 鈴木俊一(事業推進役) 業務部長事務取扱 中野 優(焼津支所長) 管理部長兼審査部長 舞島國正(管理部長) 沼津支所長 三島浩司(業務部次長兼沼津支所長) 業務部次長 曾根 勝(管理部長) 管理部 田中品子(業務部) 総務部 小松俊一(焼津支所) 同 鈴木 桂次(同) 同 早川智朗(同) 管理部兼事業推進役席 八木由佳(融資部) 総務部 岡田祐子(業務部) 審査部 吉田 稔(管理部) 業務部 鈴木正子(焼津支所) 総務部兼業務部 菅沼宏行(業務部) 業務部 齋藤行浩(融資部) 同 前島佐知子(同) 審査部 大石真由子(総務部) 業務部 大石潤也(融資部) 同 高野 悟(事業推進役席) 同 八木政徳(融資部)

## 2. 静岡県水産シンポジウム 売り込め！水産王国しずおか 開催される

去る、2月10日(木)静岡市において県(水産振興室)主催による静岡県水産シンポジウムが水産関係者及び流通業者等約300名が出席し開催されました。

シンポジウムでは、最初に県農業水産部北村部長の挨拶があり、続いて静岡県水産基本政策プログラムPRビデオの上映が行なわれ、次に日本セルフサービス協会シニアアドバイザー田村弘一氏により「売れる食づくり～食と店舗のブランド化」と題して熱い基調講演が行なわれました。

また、休憩後「静岡県水産物販売戦略の方向性」をテーマとして白田典子氏がコーディネーターとなり講師の田村浩一氏 青木巖(株)あおき代表取締役社長)竹内純一(県水産総室長)の両氏がパネラーとなり活発なディスカッションが行なわれました。

## 3. 水産政策審議会開催される

水産政策審議会の第19回資源管理分科会が2月8日、農水省で開かれ、近海カツオ・マグロ漁業の操業水域を拡大する指定漁業の許可・取締省令の改正、市町村合併にともなう指定漁業の許可・取締省令の市町村・郡名の改正、TACの期中見直しを行なう海洋生物資源保存管理基本計画の変更、平成17年度サケ・マス人工ふ化放流計画をそれぞれ審議し、原案通り承認されました。

近海カツオ・マグロの操業区域は、これまで限定・細分化された8区域が設定されてきましたが、新たに現行区域の外側に2操業区域を設け、船位位置報告装置(VMS)の備え付けを条件とし、申請に基づき変更許可を行なうもの。地域漁業管理機関による枠組みが整備され、近海カツオ・マグロ漁船の隻数が大幅に減少した中で細分化された区域規制の必要性が低下し、また意欲ある漁業者にとってはこれまでの区域規制が障害となっていることから、経営者の判断による漁場選択の幅を広げることで国際競争力の確保を図るもの。総トン数20トンを以上120トンを未満は「新近海」、10トンを以上20トンを未満は「新小型」とな

ります。申請方法については別途、水産庁長官より通達されます。TACの期中見直しは、ズワイガニについて資源再評価の結果を踏まえ、現行の総量に40トンを追加し、7,218トンとなります。サケ・マスふ化放流計画は、水資法に基づき独立行政法人さけ・ます資源管理センターが実施する計画を定めるものとなりました。

## 4. 海岸浸食について考えたシンポジウム開催

天竜川から大井川にかけての遠州灘や榛南地域の海岸で進む浸食被害について考えるシンポジウムが去る2月9日開催されました。沿岸自治体の行政、観光、漁協関係者や海岸の環境保全に携わる市民団体の関係者など約400人が参加し、海岸浸食のメカニズムと現状、対策について理解を深めました。

シンポジウムでは、土木研究センター審議役の宇多高明氏より基調講演が行われ、空撮写真などを使って遠州灘や榛南地域の海岸の現況を解説しました。宇多氏は砂浜の減少について、「天竜川からの砂の供給がうまくいかなかったのが最大の問題」と指摘した上で、砂の流れを遮るダムや海岸線の構造物などの要因を挙げて、「長年掛かって自然の力で流れてくるはずの砂がなくなった。失った砂浜を元に戻すのは至難の業」と海岸浸食を防ぐ取り組みの重要性を強調しました。

相良町の海亀保護団体の山本明男氏は、町内の海岸の定点測量結果や写真を示しながら、海岸浸食により浜崖が出現し、海亀の上陸と産卵に支障を来している現状を訴えました。

このほか県の担当者からは、海岸浸食の対策として、浸食箇所に砂を運ぶ「サンドバイパス」の取り組みについて紹介されました。

引き続き、榛南地域の環境保全団体や漁協、観光協会の代表者ら6人によるパネルディスカッションも行われ、海岸保全活動での官民の連携を求める意見などが上がりました。

## 5. 全国漁業協同組合学校が第二次募集

全国漁業協同組合学校では、平成17年度「第二次」(第66期)基礎コースの学生を募集しています。

主なカリキュラム 協同組合論 漁業法 水産業協同組合法 漁協経営実務  
漁協簿記会計実務 パソコン 漁協販売事業 特別講義  
入学資格 1年以上漁業に従事、又はJFグループに勤務中の者 高等学校卒業者  
(平成17年3月末迄に卒業見込者含む)又はこれらと同等の学力を有するもので、JFグループ所属団体の推薦を得、組合学校の選考に合格した者

応募締切：平成17年3月15日 入学選考実施日：平成17年3月22日 入学許可発表：平成17年3月29日 問合せ先：全国漁業協同組合学校 〒277-0854 千葉県柏市豊町1-4-5 TEL：04-7144-8125

## 6. 諸会議日程(2月22日(火)～3月7日(月))

- 既報分省略 -

2月28日(月) 県漁場漁港協会 = 担当者実務研修会 (静岡ブケ東海)

3月 3日(木) 県漁連 = 県トラフグ・ヒラメ資源管理型漁業実践推進漁業者協議会

(県水産会館)

3月 4日(金) 県桜えび漁業組合船長部会 = 通常総会 (伊豆長岡)